

研究構想図

【学校の教育目標】

自立 自ら動く

【生徒の実態】

- 授業や作業の中で、仲間と協働し、異なる考え方を取り入れたり、組み合わせたりするなど、様々な場で仲間と共に高め合おうとする姿が多い
- 困難に直面すると、解決するヒントや答えを待ち、自ら解決をしようと、粘り強く学ぶ逞しさに欠ける
- 素直さはあるが、発表時に自信のなさや恥ずかしさから、一步踏み出せず、自らの意見を主張できないことがある

【めざす生徒の姿】

困難に直面した時、解決策を探そうと試行錯誤しながら、自分の力で自分の道を切り拓く

社会に出て様々な問題に直面した時に、解決する

集団に埋もれることなく、自分の意見や思いを、自信をもって主張ができる生徒

【研究主題】

自ら切り拓き 逞しく学ぶ 生徒の育成

【自ら切り拓く 逞しい学び】

課題を解決するために、自分なりの解決方法を選択したり、様々な視点から解決に向けて試行錯誤したりしながら自分の力で解決の道を切り拓いていく姿

《研究仮説》

生徒自らが課題意識をもち、解決策を考える導入を行ったり、自分の解決方法や興味・関心を生かす学びを保障したりすれば、自分の力で解決の道を切り拓き、逞しく学ぶ生徒を育成することができるだろう。

【研究内容】

- (1) 課題意識をもち、解決策を考える導入【解決の道筋を切り拓く】
- (2) まかせる時間の設定（個別最適な学び）【自力で切り拓く】
- (3) 個の学びが生かされる仲間との学び（協働的な学び）【仲間と切り拓く】